

『ふるむ・マラウイ』～ガソリンがない！～

23th /July/2011 第22号

Muli bwanji ! (ムリブワンジ：チェワ語でこんにちは、ご機嫌いかがの意)

『ふるむ・マラウイ』では何度か燃料不足について触れてきましたが、今年の5月位からマラウイは慢性的な燃料不足の状況が続いています。全くないと言うことはありませんが、いつ入荷されるか分からないので、いつも同僚やガソリンスタンドに在庫確認をしてから行きます。デッサには3軒のガソリンスタンドがあり、たいていは3軒のうちどこかの1軒に入荷する状況です。業務でギリギリまで燃料を使って、ガソリンスタンドまで行く分しか燃料タンクに入っていないこともしばしばです。ガソリンが入荷したとの情報が入ったら、町中の車が集まります。時にはその列が2 km以上に及ぶことも。



ガソリン待ち



長い列

写真は7月中旬くらいのもので、ガソリンが来るという情報を貰いタンクローリーを待っていました。3時間ほど待って、タンクローリーが来てやれやれと思っていたところ今度はガソリンスタンドのポンプが故障してしまい、結局ガソリンを入れるまで8時間かかりました。ジョークとしか言いようがなく、日本だったらお客は激怒することでしょう。怒っても状況は変わらないので、この時はガソリンスタンドで会う顔見知りとおしゃべりしたり、新聞を読んだり、近くのレストランで食事をしたりしていました。さすがにこの慢性的な燃料不足は気長なマラウイアンも、辟易しているようです。ガソリンは主にお隣のモザンビークやジンバブエから入って来ます。相手国の状況もありますが、マラウイは外貨が圧倒的に不足しており燃料そのものが購入できず、さらに備蓄まで手が回る財政状況ではない等、いろいろな問題が背景にはあります。またここ数年で国内の車の所有台数も増えてきたこともあり、供給に対し需要が大幅に増加しているのも原因の一端です。それほど大きな街ではないデッサでもこの状況なので、首都のリロングウェやブランタイア等はもっと深刻です(リロングウェは42軒のガソリンスタンドがある)。燃料不足は、灌漑施設の建設現場や村を巡回すること多い、私たちの活動や業務そのものに直接影響を与えていますが、なんとかやりくりしながら活動を続けている状況です。

以前にも、ブラックマーケットについて触れましたが、私はブラックマーケットで燃料を購入した経験はありません。理由は二つあります。一つはガソリンを嵩まししている可能性が高く、バイクの故障の原因になること。二つ目は、ブラックマーケットで購入すれば、その場は凌げますが、結局この国の抱える問題の解消にはならず、そのようなことに個人的にはあまり負担をしたくないという思いがあるからです。

ガソリンの問題に限らず、マラウイのような国ではあらゆる局面で『待つ』ことが必要になります。仕事のやり方が非効率なことや時間をあまり守らないなど多くの原因があります。『待つ』ことが良いことか悪いことかは分かりませんが、状況を読みつつ『待つ』ことがこの国で上手く仕事をして行くコツかもしれません。